

## 4. 当委員会の活動概要

土木学会は、大学・高専・工業高校の教育問題や、技術者の人材育成に関する諸テーマを対象に活動していた委員会群を2004年に統合し、教育企画・人材育成委員会を発足させた。土木学会の性質上、調査研究系の委員会が圧倒的多数を占めるが、その中で唯一の教育系委員会はこうしてスタートした。2014年4月時点における構成は図-4.1のようである。同図には、人材の年齢軸と活動空間軸の上に各委員会の位置が図示されている。教育と人材育成は時空間的につながっていることが重要であるが、同図を見れば委員会活動の時空間軸上における連続性は概ね確保されていることがわかる。

「大学・大学院～高専～高校」の各小委員会は、教育上の課題と対策を多角的に検討している。大学教育に関する国内外の情報収集や社会が求める大学教育の考究、高専を対象とした土木教育研究会や学術講演会の開催と高専対象のジャーナル「シビルタイム」の発刊、東西日本の高等学校土木教育研究会と工業高校教員対象の夏期研修会などに取り組んでいる。中堅技術者は技術の品質を担う重要な役割を果たすが、日本では必ずしも職業教育が重視されていない。工業高校関係者はインターンシップの導入やコミュニケーション能力の養成など教育改善に取り組んでおり、孤軍奮闘する高校教育界に対し土木学会や技術界からのより一層の支援が必要と感じている。

「土木工学分野における知識体系・能力体系の検討」小委員会では、高等教育の質保証に関する国内外の情報を収集し、高等教育機関と社会との接続を考慮した継続教育を念頭に、知識・能力体系と資格制度の関連について検討を進めている。

初等・中等教育に対しては、現在、様々な切り口から取り組んでいる。キッズプロジェクト検討小委員会では、行政・教育委員会やNPOとの協働体制の下で小中学校の総合学習支援や教材・学習ツールの開発、各方面との意見交換会などを実施している。本委員会の総合学習支援は教育現場において非常に好評で高く評価されているが、各地の行政機関などが実施している総合学習や出前授業などと同様、単発に終わり、教育現場での自主的な動きとして拡がりにくいのが実態である。また、NPOなど第三者の教育現場への参入に対しては、未だに法政・行政上の垣根が高いことが悩みである。同委員会では、教育関係者や父兄を含む協議会ネットワークを作り、総合学習支援を組織的・自律的に広げるための方策を模索している。土木と学校教育会議検討小委員会では、子ども達が公民的資質を備えた国民へと育

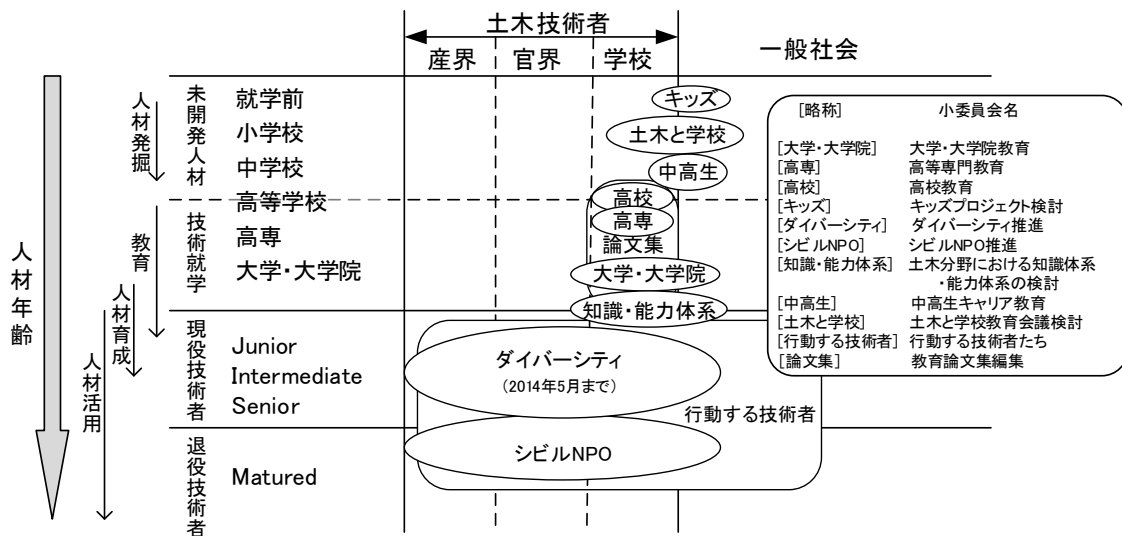


図-4.1 土木学会の教育企画・人材育成委員会の構成 (2014年4月)

つようなシティズン・シップ教育の実現を目指して、土木技術者と初等・中等教育の関係者がラウンド・テーブルにつき教育を議論するための組織構築を進めている。学習指導要領・教科書の改訂など初等・中等教育の制度設計に対する働きかけも目標に据えながら、同会議主催のワークショップやシンポジウム、さらに国内外の教材研究などを進め、政界を含む各方面から同委員会の活動に注目が集まっている。中高生キャリア支援小委員会では中高生が将来の進路を考える際に役立つ情報を提供するために、日常生活に密着した土木技術者の仕事を平易に紹介するサイトづくりを検討している。これら三つの委員会はそれぞれ、初等中等教育の①現場、②制度システム、③進路啓発、の側面から土木技術界の役割を検討している。

技術者の環境改善・整備と生涯教育に関連する小委員会では、多様な教育企画、および、人材育成関係の諸事業を展開している。学校教育の外側にある技術者社会での人材育成や人材活用については、ダイバーシティ推進小委員会と成熟シビルエンジニア活性化小委員会が、異なる切り口から独創的に活動している。「ダイバーシティ」小委員会は、土木技術者社会における男女共同参画の推進に端を発して設立された。他の先進諸国に比べ日本では働き盛りの女性の就業率が低く、換言すれば潜在的労働力がきわめて高いと言える。土木界はその傾向がさらに高いため、ジェンダー・ジェネレーションを越えて多様な人材活用(人材ダイバーシティ)を実現すれば、少子高齢化による労働市場のひずみを緩和し、国力を回復することが可能となる。ワークライフバランスや女性技術者のロールモデル育成など、ダイバーシティ推進のための様々な取り組みを進めている。なお、ダイバーシティ小委員会は、2014年6月から教育企画・人材育成委員会から独立し、教育企画部門の中の一つの委員会として活動することとなった。「成熟シビル」小委員会は、高齢化社会において豊富な経験と技術を積み重ねた質の高いシニア人材を活用し、土木技術の総合力を高めるための諸施策を提言し実行している。「シビル NPO 推進小委員会」は、全身の「建設系 NPO 中間支援組織設立準備会」が2014年8月に NPO 法人(シビル NPO 連携プラットフォーム、略称 CNCP)を立ち上げたことを受け、その後も土木学会と CNCP が緊密な連携を図りつつ活動を行うために設置した小委員会である。学会内における NPO 活動等の社会貢献活動の推進を進めている。「行動する技術者たち小委員会」では、多様化する市民ニーズや複雑な課題、めまぐるしく変化する社会経済情勢を踏まえ、地域に貢献するため専門的知見を生かしつつも従来の技術分野を越えて行動する土木技術者や同様の意思と実績を持つ技術者を取材・紹介することにより、新たな時代の国土・地域づくりから求められる土木技術者の資質を探ることを活動目標としている。ウェブでの記事公開に加えて、適宜出版も検討されており、技術者の育成に加えて、一般社会の人々への土木の現状の理解を促し、もって、土木を巡る諸環境の改善に資することが期待される。

最後に、「教育論文集編集」小委員会は、土木学会における本小委員会を中心とした人材育成、教育企画諸活動の公表、出版の場として運営されている。現在、これまでの学術論文、教育事例報告に加えて、本委員会の上述の様な各種の小委員会活動の公表の場としてもより大きな役割が期待されている。